

# 英語学を文法指導に生かす (1)

久保野 雅史

## 1. 現在完了進行形が帰ってくる

2021年度実施の中学校学習指導要領から、次の表で示すように現在完了進行形が中学校に戻って来る。

告示年	1969	1977	1989	1998	2008	2017
<b>実施年度</b>	<b>1972</b>	<b>1981</b>	<b>1993</b>	<b>2002</b>	<b>2012</b>	<b>2021</b>
時数(週当たり)	3×3	3×3	(3+1)×3	(3~4)×3	4×3	4×3
単語数	950~1100	900~1050	~1000	900	1200	1600~1800
感嘆文	2年	2年 基本的				基本的
付加疑問	3年					
<b>S+V+O+O (that節)</b>	3年					○
<b>S+V+O+O (間接疑問)</b>						○
<b>S+V+O+C (原形不定詞)</b>	3年					使役のみ
<b>S+V+O+C (分詞)</b>	3年					
<b>be + 形容詞 + that節</b>						○
一般動詞 + 現在分詞	3年					
助動詞付きの受け身	2年				△	△
前置詞 + 関係代名詞						
関係副詞	3年 (when, where)					
現在完了進行形	3年					○
過去完了						
仮定法						基本的
分詞構文						

ほぼ半世紀近くは高校の指導事項であり中学校から切り離したため、現在の中学生の大部分は「現在完了の継続用法を使えば『今までずっと～している』という意味を表せる」と誤解して来た。このように拡大解釈してしまうのも無理はない。なぜならば、現行の中

学校教科書には、

(1) How long have you known each other ?

のように「進行形にならない動詞」の例文しか登場しないからである。現在完了の <継続> で用いられる動詞は一部に限られているのだ、と授業でいくら説明したとしても、<継続> で使えない動詞との対比で示さなければ、腑に落ちるはずがない。

## 2. 対比を生かした説明

それでは、授業での具体的にどのような説明をすればよいのだろうか？

(2) I have known him for years.

(3) It has been raining for hours.

(2)も(3)も「過去のある時点から今まで、ある状態が継続している」という意味を表している。

(2) = 「知っている」という状態の継続

(3) = 「雨が降っている」という状態の継続

## 3. 動詞のタイプと進行形

さて「…している」という意味を表すのに、どうして(2)ではknowになり、(3)ではbe rainingとしなければならないのだろうか？これは動詞の性質の違い、つまり、

(4) 進行形に「なれない」動詞 → (2)

(5) 進行形に「なれる」動詞 → (3)

の違いなのである。代表的なものを挙げてみよう。

(4) 進行形になれない動詞 : be, have (所有), know, like など

(5) 進行形になれる動詞 : (4)以外の動詞, 例えば play, rain, run, study など

(4)は「持っている, 知っている, 好んでいる」のように「…している」「…ある」という「状態」を表す動詞である。一方, (5)は「遊ぶ, 雨が降る, 走る, 勉強する」のように「…する」という動作を表す動詞である。本稿では,

(4) 進行形になれない動詞 → 「状態動詞」(…している)

(5) 進行形になれる動詞 → 「動作動詞」(…する)

と呼ぶことにする。

#### 4. <動作>を<状態>に変化させる

進行形は「…している」という意味を表している。「…する」という意味の<動作>を「…している」という<状態>に変化させる仕組みが進行形なのだ, と考えてもよいだろう。しかし「状態動詞」は, もともと「…している」という意味なのだから, わざわざ進行形にする必要はない。動詞 know は本来「…している」という意味を持っているので, わざわざ be knowing (×) とする必要がないのである。

それでは話を, (2)と(3)にもどそう。

(2) I have known him for years.

(3) It has been raining for hours.

(2)も(3)も, 「…している」という状態が現在まで継続する, という意味を表している。したがって,

(6) have + 「…している」

となるように, 動詞を「…している」という状態にしてから, haveに後続させれば良い

のである。先ほど述べたようにknowはもともと「…している」とい状態を表しているの、そのままで問題ない。しかしrainは動作動詞なので、進行形に変えないと「…している」という意味にはならない。そのため、

(7) 「状態動詞」は、現在完了（継続）

(8) 「動作動詞」は、現在完了進行形

のように、結果として使い分けられることになるのである。

## 5. 微妙な差異より教育的配慮を

今までの説明を整理してみると、

	現在完了（継続）	現在完了進行形
状態動詞	◎	×
動作動詞	△	◎

という原則が明確になる。(7)と(8)を、表の中では◎で示した。また、△は

(9) I have studied English for two years.

のような場合を示している。△でなくて×ならば話は単純なのだが、動作動詞の一部では、実は(9)のように＜現在完了（継続）＞としての使い方も可能なのである。

しかし、◎と△の記号で表しているように、動作動詞の場合は先ほどの原則に従って、

(10) I have been studying English for two years.

のように＜現在完了進行形＞を使う方が良いだろう。(9)と(10)の両方が使える場合には、(10)の形を使方が一般的だからである。

従って＜現在完了進行形＞を最初に授業で扱う際には、(9)と(10)の両方が可能であ

ることには触れない方が良いでしょう。筆者の主張と同趣旨の教育的配慮は、江川（1982）にも、

- (11) 現在までの動作の継続を表すには動作動詞の完了進行形を使うが、一部の動作動詞は単なる完了形でもよい。単なる完了形か完了進行形かによって微妙な差はあるが、（高校生）読者諸君自身の英語としては「動作の継続は完了進行形」ということにすればよい。（下線は引用者による）

のように記述されている。

## 6. 副詞句のアシスト

動作動詞の場合は <現在完了進行形>、と割り切って指導した方が良い理由は他にもある。(9)と(10)から *for two years* という期間を表す副詞句を取り去ったらどうなるだろうか？

(12) I have studied English. ← (9)

(13) I have been studying English. ← (10)

(12)は「英語の勉強をしたところだ」とか「英語の勉強をしたことがある」という意味にしか解釈できない。期間を表す語句がないと「ずっと…している」という <継続> の意味にはならないからである。しかし、(13)は副詞句がなくとも相変わらず「ずっと英語の勉強をしていた」という意味を表すことができる。このことから分かるように、(9)が <継続> の意味を表せるのは、期間を表す副詞句 *for two years* の助けに寄るところが大きいのである。一方、(10)は副詞句の助けは必要としていない。そのため、(10)を使った方が無難なのである。

## 7. 微妙な違いはどこから

次に、(9)と(10)が表す意味の「微妙な違い」について考えてみよう。それぞれは、

(9) = I *study* English every day. <習慣の継続>

(10) = I *am studying* English now. <状態の継続>

を表していると考えられ、(9)よりも(10)の方が「一時的なこと」という感じがする。

もっと典型的な例を出してみよう。「彼は銀行に勤めている」と言う場合に、(14)と(15)ではどのような違いが出てくるだろうか？

(14) He *works* for a bank.

(15) He *is working* for a bank.

(14)は「彼は銀行員だ」という意味で、銀行勤めが常勤の定職であることを表している。一方、(15)の場合は「今は、銀行に勤めている」という意味で、どちらかというとき非常勤や臨時雇用を含意している。

このように、通常は進行形にならない動詞を、敢えて進行形にすると「一時的、臨時的」であることが強調されることになる。次の文章でlookがわざわざ進行形になっている理由を考えてみて欲しい。

(16) Let us imagine a scene in which John, dancing with Linda, compliments her directly on her looks: "You are looking very pretty tonight." Paul, her boyfriend, does not hear this, but when Linda returns to him he asks: "What was John saying to you?" Her reply is: *John told me I am looking pretty tonight.* The present tense is retained because the dance is still in progress; it is still "tonight"; Linda is still looking pretty.

But if Paul asks her the same question on the morning after the dance she will reply: *John told me I was looking pretty last night.*

JohnはLindaに向かって「今夜は、とても可愛いね」と言っているのであり、「君は、いつも可愛いね」と言っているのではない。同じような例としては、

(17) He *is* smart. (彼は賢い男だ) → <性質>

(18) He *is being* smart today. (彼、今日は冴えてるな) → <一時的状態>

状態動詞の典型とも言えるbe動詞も、このように進行形で使える場合がある。他にも、think, wonderのように思考を表す動詞も、一時性を強調するためには進行形で使うことができるのである。

## 8. 全体像を提示することの意義

<現在完了進行形>の指導には、確かに複雑な部分がある。言語形式的には、述語動詞が<have been doing>と3語になることである。また、現在完了<継続>との使い分けなどである。しかし、複雑で難しいからといって、一部を中学校から切り離して高校に送ってしまったために、かえってシステムの全体像が見えにくくなってしまったようである。

また驚くべきことだが、高校教員の中には<現在完了進行形>が半世紀前と同様に中学校の既習事項だと未だに思い込んでいる人も少なくない。新出事項だと意識していたとしても、現在完了<継続>との対比を通して丁寧に指導されていることは多くないように思われる。

このように、中高6年間を長期的に見通すと、文法事項の配列や構成には再考すべき点がいくつかあることが分かる。だから「必要に応じて、高校の文法事項とも積極的に絡ませて指導していくことが必要」なのである。そうすることによって、それぞれの文法事項の理解が深まり、相互の関係が明らかになり、結果として「中高の狭間」が埋まるからである。

## 9. 状態動詞の進行形

Close (1992) に、次のように興味深い記述がある。少し長くなるが、引用してみたい。  
下線は引用者が付けたものである。

### PSYCHOLOGICAL SUBTLETIES

Since we are concerned in this book with the connection between grammatical form and what we have in mind, it is not surprising that in many of the problems we are discussing there are psychological subtleties. Students can fairly easily understand the difference between *I'm thinking* (mental activity) and *I think* (mental impression). They may be more puzzled to hear *I'm thinking you're right*. That can be perfectly 'correct' if the speaker is deliberately using marked form to suggest that a certain conclusion is forming itself in his or her mind but is not yet final. Thus *I think you're right* is more definite (besides being safer for the students to imitate) than *I'm thinking you're right*. Similarly, *I'm liking my work*, instead of the normal and more decided *I like it*, suggests that the process of becoming adjusted to it is still going on; or it might mean that I am lingering over its delight. Then consider the difference between the following:

- (a) I hope you will come and have lunch with me.
- (b) I am hoping you will come and have lunch with me.

Both are right but they are not equal in the effect they might have on the hearer. Native speakers who select one rather than the other, may be quite unaware that they do, and unable to explain why they do. Any explanation one can offer might be drawn from purely personal associations. My own explanation is that a busy, self-important man might feel (a) to be too presumptuous, and refuse the invitation, but (b) flatteringly deferential and accept; while someone else to whom that invitation was given might feel (a) to be definitely meant, and accept with pleasure, but (b) to be uncertain and not sufficiently pressing. The speaker's attitude — dictatorial or

deferential, positive or uncertain — can be an important factor in these cases. However, the basic factor in the above examples is not the positiveness, the uncertainty, or whatever it may be in the speaker's attitude, but the speaker's conception of the action as a whole, as accomplished (*hope*), or partial, in progress or continuing (*hoping*). (p.64)

## 10. 一時性と丁寧さ

微妙な違いをただ記述するだけでなく、その違いが生じるメカニズムが明快に説明されている。また、学習上の配慮にも言及があり、含蓄のある内容となっている。Closeの説明を、整理してみることにしよう。

(19) I *think* you are right. <単純形>

(20) I *am thinking* you are right. <進行形>

(19)の単純形I think ... は「私の考えは…です。」というように、話し手が意見を確定して表明しているように聞こえる。一方、(20)の進行形 I am thinking ... は、考えてはいるのですがまだ結論には至っていない、その途中であるというように響く。(20)には「途中である、確定したものではない」という含みがあるのである。

(20)が持つ含意は、丁寧さ (politeness) とも関わってくる。朝食に誘う例を、もう一度見てみよう。

(21) I *hope* you will have lunch with me.

(22) I *am hoping* you will have lunch with me.

(19)(20)の違いと平行的に考えると、(21)(22)の違いは次のようになる。

(21) 確定的な誘い

(22) 不確定的な誘い

話しかける相手によっては、**(22)**は失礼に響くことがある。例えば、聞き手が多忙な人や目上の人だった場合、相手の都合も確かめずに自分の希望を一方的に述べているからである。このような場合は、**(22)**のように「…だと考えているとこなのですが」と言った方が控えめで丁寧に響くことになる。(中途半端で不確定な誘い方をされると、相手が本心から誘っているのか分からないため、明確に言われた方が引き受けやすい、と感じる場合ももちろんあるだろう。同じ表現が、相手と状況によって、丁寧になったり失礼になったりするのとは、**(21)****(22)**の違いから考えれば、無理なく理解できることができるだろう。)

相手に「今日は暇ですか？」と尋ねる場合を考えてみよう。

**(23) Are you free today?**

友人や同僚ならば「今日、暇か？」と直接的に尋ねるので問題はない。これを、少し丁寧に質問にするには、

**(24) *I wonder if you are free today.***

「今日は暇かなと思って」という独り言の形を使うことになる。直接的に質問しているわけではないので、聞き手に Yes / No で回答する義務が形式上は生じない。相手に返答の義務を課さないため、**(23)**よりも丁寧に響くことになる。進行形にすると、さらに丁寧になる。

**(24) *I am wondering if you are free today.***

「今日は暇かなと、今ちよっと思っただけけれど」という一時性を強調した言い方になるので、**(23)**よりもさらに控えめに響くのである。より一層丁寧にするには、次のようなバリエーションもある。

**(25) *I am just wondering if you are free today.***

**(26) *I have been wondering if you are free today.***

**(27) *I was (just) wondering if you are free today.***

(27)は「先ほど、ちょっと思ったのですが…」という意味になるので、現在進行形よりもさらに間接的に意向を尋ねている感じがする。このように、進行形の持つ含意は、丁寧さと密接な関係を持つのである。

以上、本稿では「現在完了進行形」を切り口として、「進行形」「丁寧さ」という一見すると別個の文法事項を、点を線でつなぐように関連付けて指導するには、英語学の知見が必要であることを紹介した。

YouTubeの普及で、誰でもが発信することが可能になった。発信の敷居が下がったために、「教えるための嘘」が巷に横行しつつある。(発信者の中には、それが言語学の常識とは相容れないものであることに気づいてすらいない者もいるようである。)  
「嘘も方便」と言うではないか、との反論もあるだろう。しかし、大学に進学して言語学を学んだ学生が「中学校・高校で習ったことは、ご都合主義的な教えるための方便だったのか…」と気づいて悲しむような指導は避けるべきであろう。小手先の分かり易さを追い求める小細工は止めて、言語学の知見に誠実に向き合った文法指導を考えると来ているのではないか。

---

### <参考文献>

Close, R. A. (1992) *A Teachers' Grammar*, Thomson Heinle.

江川泰一郎 (1982) *A NEW APPROACH to English Grammar*, 東京書籍